

平塚市下水道事業経営戦略

令和4年度 進捗状況報告書

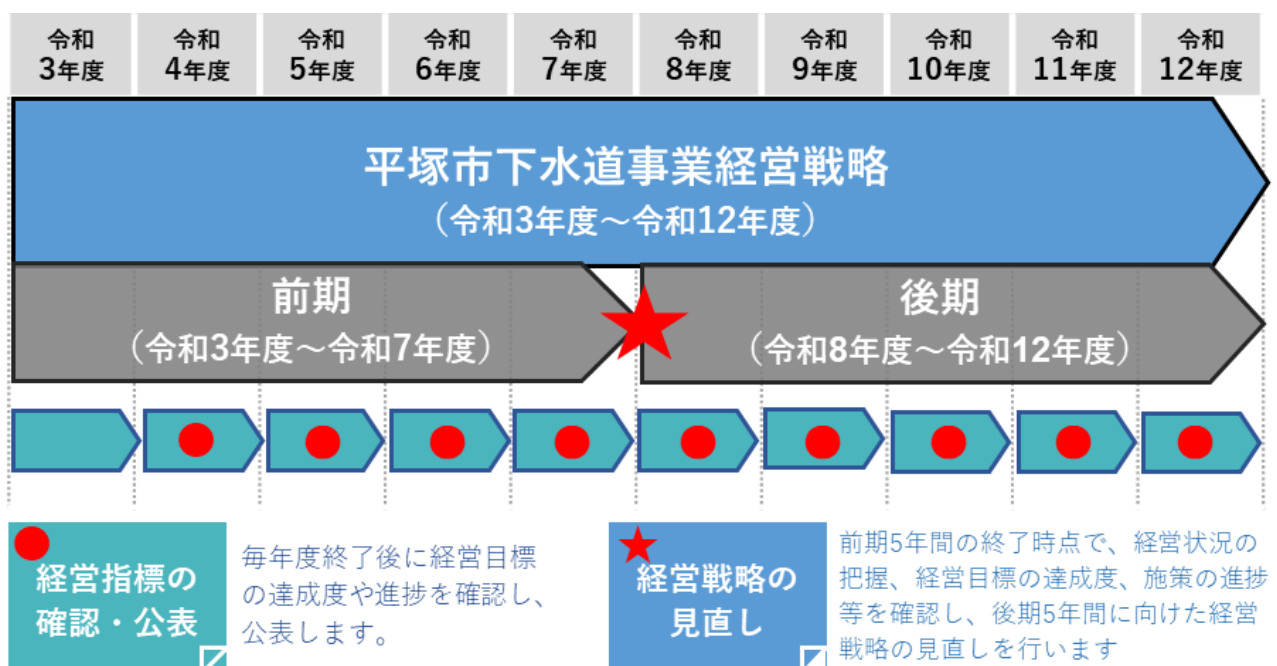
平塚市

はじめに

平塚市では、市民に下水道サービスを持続的・安定的に提供するとともに、中長期的な視点で経営環境の変化に対応し、一層の経営基盤の強化と収支が均衡する持続可能な経営を図るため、今後10年間に目指すべき方向と事業管理のあり方を示す「平塚市下水道事業経営戦略」（以下「経営戦略」という。）を令和2年度に策定しました。

この計画では、PDCAサイクルを確実に実施するため、毎年度終了後に、本経営戦略で掲げた経営目標の達成度や施策の進捗に関して確認を行い、公表するとともに、確認結果を基に次年度以降の施策の実施方法について改善を行うこととしています。

また、計画期間の前半5年を前期、後半5年を後期とし、中間年次の令和7年度に前期の目標達成度合いの分析を実施し、必要に応じた経営戦略の見直しを行います。



【経営目標の達成度確認方法】

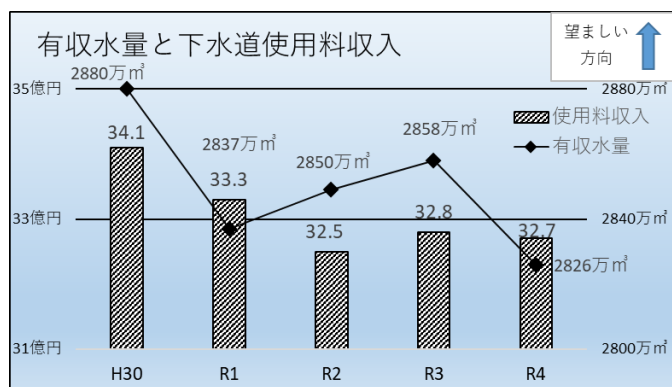
毎年度終了後に、決算数値などから経営指標を算出します。その結果を計画の推計値や目標数値と比較し、達成度や進捗状況の確認を行います。

また、類似団体との比較^{※1}を行い、経営状況を把握します。

※1…経営戦略では、現状分析で行う比較対象団体として10団体（小田原市、茅ヶ崎市、川越市、所沢市、春日部市、柏市、流山市、八千代市、宝塚市、那覇市）を選定^{※2}していますが、各団体の令和4年度の決算数値や経営指標の公表時期に差異があることから、比較データは総務省ホームページの「地方公営企業の決算（令和3年度）」に掲載されている各団体のデータを参考として使用しています。なお、本報告書内での類似団体平均値とは、すべて平塚市を含む数値です。

※2…総務省による類似団体の分類を参考に①事業規模、②地理的条件、③流域下水道に接続していることのほか、下水道普及率及び神奈川県内の地域性を考慮し選定しました。

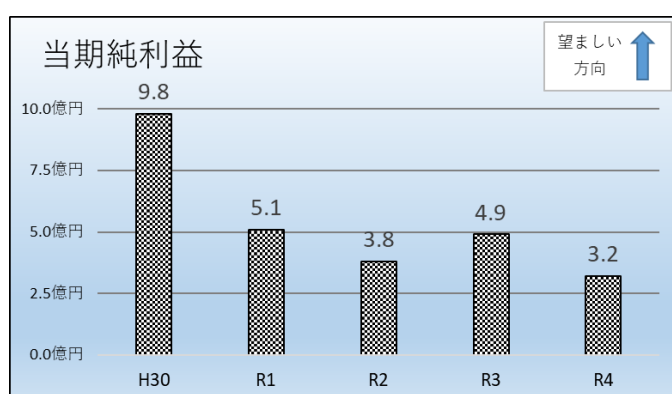
令和4年度 決算の状況



有収水量は、事業所の排水量の増加以上に家庭の排水量が減少し、前年度と比べて32万m³減少しました。下水道使用料は累進逓増制のため、前年度と比べて0.1億円の減少にとどまり、32.7億円となりました。

<推計値との差> (下水道使用料)

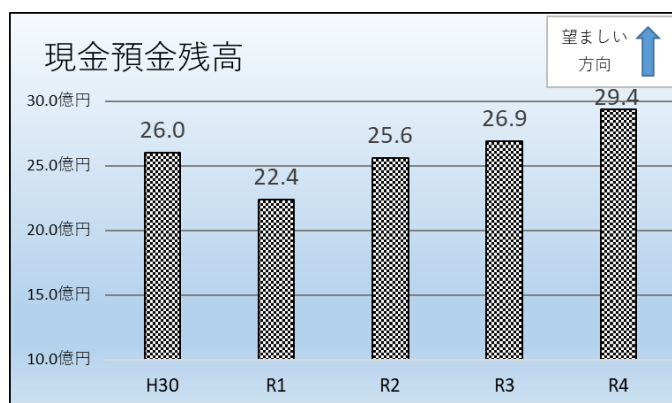
令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
32.8億円	32.7億円	-0.1億円 △(未達成)



当期純利益は、使用料収入の減少や維持管理費の増加等により、前年度と比べて1.7億円減少し、3.2億円となりましたが、平成28年度の企業会計移行後7年連続で純利益を計上しました。

<推計値との差>

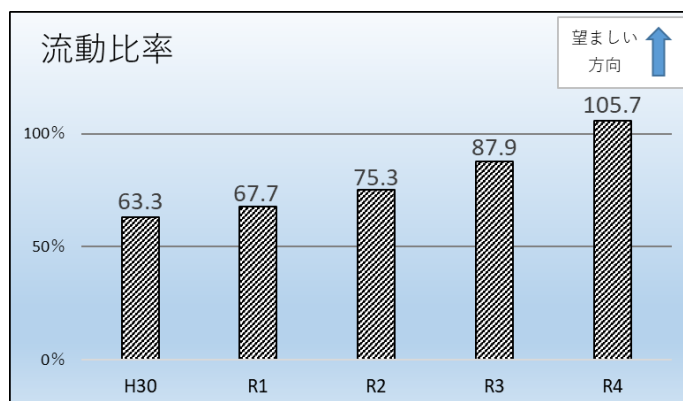
令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
2.0億円	3.2億円	+1.2億円 ○(達成)



現金預金残高は、企業債償還の進捗による償還額及び支払利息の減少等により、前年度と比べて2.5億円増加し、29.4億円となりました。

<推計値との差>

令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
20億円	29.4億円	+9.4億円 ○(達成)

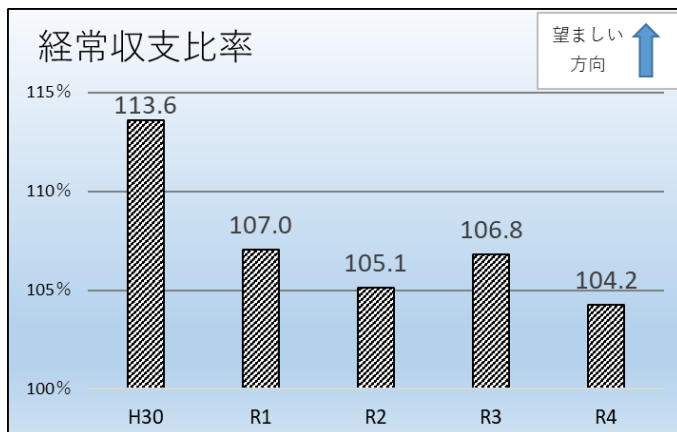


流動比率は、流動負債に対する支払い能力を示す指標で、現金預金の確保と支払利息の減少により、比率は増加傾向にあります。前年度と比べて17.8ポイント増加して105.7%となり、平成28年度の企業会計移行後初めて100%を超える結果となりました。

<推計値との差>

令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
72.0%	105.7%	+33.7% ○(達成)

(令和3年度の類似団体平均値：156.4%)

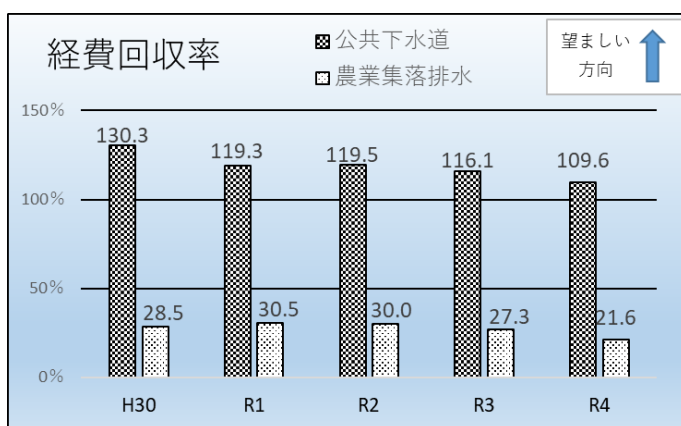


経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄えているかを示す指標です。令和4年度は収益が増加しましたが、それ以上に費用が増加したことで、前年度と比べて 2.6 ポイント減少し、104.2%となりました。

<推計値との差>

令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
102.8%	104.2%	+1.4% ○ (達成)

(令和3年度の類似団体平均値：104.3%)

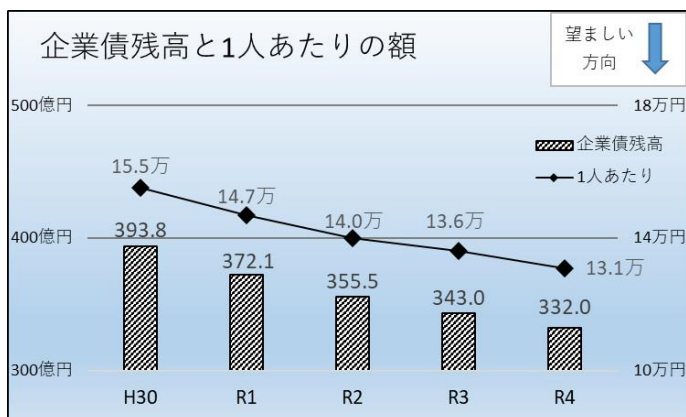


経費回収率は、汚水処理費用を使用料収入でどの程度賄えているかを示す指標です。公共下水道・農業集落排水ともに、前年度と比べて使用料収入が減少し、汚水処理費は増加したため、公共下水道は 6.5 ポイント減少の 109.6%、農業集落排水は 5.7 ポイント減少の 21.6%となりました。

<推計値との差> (公共下水道)

令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
116%	109.6%	-6.4% △ (未達成)

(令和3年度の類似団体平均値：98.4%)

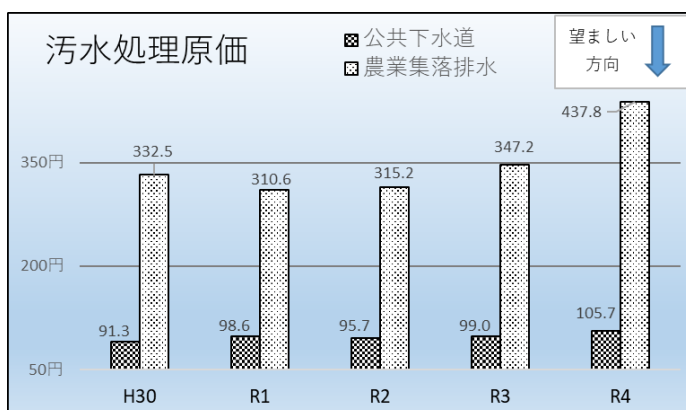


企業債残高は、計画的な償還により減少傾向にあり、前年度と比べて 11 億円減少し、332 億円となりました。1人あたりの額については前年度と比べて 0.5 万円減少し、13.1 万円となりました。

<推計値との差> (企業債残高)

令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
340.1億円	332億円	-8.1億円 ○ (達成)

(令和3年度の類似団体平均値：230.5 億円)



汚水処理原価は、有収水量 1㎡あたりの汚水処理費です。公共下水道・農業集落排水ともに、汚水処理原価は前年度と比べて増加し、公共下水道は 6.7 円増加の 105.7 円/㎡、農業集落排水は 90.6 円増加の 437.8 円/㎡となりました。

<推計値との差> (公共下水道)

令和4年度推計値	令和4年度決算値	比較結果
101.2円/㎡	105.7円/㎡	+4.5円/㎡ △ (未達成)

(令和3年度の類似団体平均値：121.0 円/㎡)

平塚市下水道事業経営戦略 経営目標 進捗状況(令和4年度末時点)

活動指標	基本方針②
ヒ ト	
「組織・人材」	下水道事業を担う人材の育成と効率的な業務環境づくり

	実績値 (令和2年度)	実績値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	目標数値 (令和7年度)	目標値との差	目標数値 (令和12年度)
研修受講者数	44人	59人	70人	60人	+10人	60人
労働生産性 (営業収益/損益勘定職員数)	227,566千円	205,691千円	213,494千円	231,000千円	-17,506千円	231,000千円

※労働生産性：労働の成果を労働量で割ったもの。ここでは職員1人当たりでどれだけ成果を生み出したかを示す。

※損益勘定職員：下水道事業に所属している職員のうち、主に収益的収入及び支出に関する業務に従事している職員。

○研修受講者数は、経営戦略や決算の勉強会など、庁内研修受講者の増により70人となりました。

○労働生産性は、営業収益が令和3年度より増加したことから、213,494千円となりました。

経営指標	基本方針③
カ ネ	
「財務」	下水道事業の経営の効率化と経営基盤の強化

	実績値 (令和2年度)	実績値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	推計値 (令和4年度)	推計値との差	目標数値 (令和7年度)	目標数値 (令和12年度)
経費回収率 (公共下水道)	119.5%	116.1%	109.6%	116%	-6.4%	100%以上	100%以上
当期純利益	3.81億円	4.93億円	3.21億円	2.0億円	+1.21億円	黒字確保 建設改良積立1億円	黒字確保 建設改良積立1億円
流動比率	75.3%	87.9%	105.7%	72.0%	+33.7%	70%以上	75%以上

○経費回収率（公共下水道）は、令和3年度から6.5ポイント減少し109.6%となりました。

○当期純利益は、令和3年度から1.72億円減少し、3.21億円となりましたが、企業会計移行後から7年連続で利益計上しています。

○流動比率は現金預金残高の増加等により、令和3年度から17.8ポイント増加して105.7%となりました。

活動指標	基本方針④
情 報	
「広報」	下水道情報の発信拡充による認知向上

	実績値 (令和2年度)	実績値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	目標数値 (令和7年度)	目標値との差	目標数値 (令和12年度)
エンゲージメント率	— ※R2年度はSNS投稿 実績なし	7.2%	5.8%	19.7%	-13.9%	19.7%
イベント参加人数	— ※R2年度は中止(コロナ) のため、実績なし	— ※R3年度は中止(コロナ) のため、実績なし	48人	500人	-452人	500人

※エンゲージメント率：SNSの投稿に反応したユーザーの割合。投稿に反応したユーザー数を、投稿を見たユーザー数で割り、百分率で表したものの。

○令和4年度は、市民に直接届くLINEでの情報発信を増やしたことから、Twitter等での投稿件数は令和3年度より減少し、エンゲージメント率は5.8%（Twitter及びFacebookの投稿閲覧数6,126件、反応数357回）となりました。

○イベント参加人数については、令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止により、（公財）神奈川県下水道公社主催の「下水道ふれあいまつり」は中止となりましたが、市主催の防災啓発イベント「防災フェア」に浸水対策ブースを出展し、48人が参加しました。

まとめ

令和4年度は、3.2億円の純利益を計上するとともに、現金預金残高も、前年度に続き公営企業会計移行後最高値となる29.4億円を確保することができました。また、企業債残高は、計画的に償還を進めることにより減少傾向にあり、支払利息の減少と現金預金の増加等により、流動比率は増加傾向にあります。その一方で、主に動力費の高騰の影響による污水处理費の増加に対し、下水道使用料収入は前年度とほぼ横ばいとなり、経費回収率や污水处理原価は推計値を下回る結果となりました。その他の決算数値や経営指標では推計値を下回る項目はなく、下水道事業は一定程度安定した経営状況であったものの、今後さらに厳しさを増すと見込まれる経営環境に備え、一層の経費削減に努めるとともに、使用料のあり方について検討を継続する必要があります。

経営戦略の推進にあたり、引き続き毎年度の進捗管理を行うとともに、各経営目標等の達成に向け、取組みを強化します。また、計画期間の中間年次の令和7年度には、前期の目標達成度や施策の進捗状況の確認のほか、脱炭素化など新たな取組みも検討に加え、後期5年間に向けた経営戦略の見直しを行います。

平塚市下水道事業経営戦略 令和4年度 進捗状況報告書

令和5年8月

平塚市 土木部

下水道経営課・下水道整備課

〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号

電話：0463-23-1111（代表）